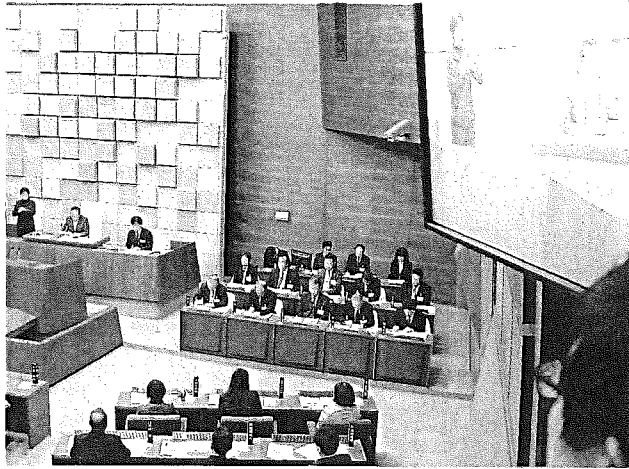


手話通訳者が配置された市会本会議一中崎1



市会 手話通訳者初の配置

本会議場、議長席横に

明石市会は15日、改選、議場の議長席の隣に手話通訳者を初めて

の対応を行う方針という。

4月の市議選では、生まれつき耳が聞こえず話せない家根谷敦子

議員(55)が初当選。同議員と同じように働きたい」と決意表明した。市会は今後、本会議や議員協議会、家根谷議員が所属する文教厚生常任委員会などに手話通訳者を配置する予定で、そのほかの派遣範囲についても検討する。

(井原尚基)

手話通訳者 任期付専門職で採用 市長方針 政策立案も担当

明石市の泉房穂市長は15日会見し、手話通訳や要約筆記などを担う職員を近く採用する方針を明らかにした。任期付専門職とする予

定で、通訳だけでなく政策立案や職員研修なども担う。同市は4月、手話による情報発信推進などを盛り込んだ手話言語

などに対応する体制の充実が急務と判断しているといい、明石市では2人程度を採用する方針。一般職員の手話学習も支援する計画で、泉市長は「スピード感を持ってスケジュールを定めたい」と述べた。(井原尚基)

等条例を施行し、今後は障害者差別解消条例を制定する方針も掲げている。

二つの条例に加え、4月の市議選で生まれつき耳が聞こえない家根谷敦子議員(55)が当選したことから、手話通訳や要約筆記